

道

発行 真言宗豊山派 霊松山歓喜院
金剛寺

〒371-0241 前橋市苗ヶ島町 1147
TEL 027(283)6918 FAX 027(283)6815
<http://www.raijin.com/kongouji/>

お盆に思う

正覚院 住職 安孫子虔悦



盆近し ひとりひとりの 位牌ふく
今年もお盆を迎える頃となり、静か
だった郷も少しにぎわって参りまし
た。

私は東京下町深川にあります浄土宗正
覚院住職です。志田洋遠上人とは大正
大学の学友で、五十年來の親交をいた
だいております。志田上人は青少年育
成にご尽力され、正力松太郎賞をはじ
め数々の功労賞のもと、仏教化活動
を通じた功績は大なるものがありま
す。この度当寺の機関紙に寄稿のご縁
をいただきました。

さて、あなたは自分のご両親をご存
知ですか。何を当たり前のことを聞く
とお思いのことでしょうか。では、その
ご両親、そのまたご両親はいかがで
しょうか。このあたりまで来ると、ほ
とんどの方があまりご存知ではないか
と思います。自分の家の祖先といつて
も、私たちは三代前までもあまりよく
知りません。そんなよくわからない人
たちが家に帰ってくる日がお盆ですと
言われても、若い人たちなどはかえっ
て怖がってしまうかもしれません。し

かし、ご先祖さまを供養するというこ
とは、人間形成において非常に重要な
意味を持つと私は思うのです。

そもそも、人間はいつから祖先供養
をするようになったのでしょうか。亡
くなった方を埋葬するという風習は、
いまから約三十五万年前に出現したネ
アンデルタール人の頃から存在してい
たようです。日本でも縄文時代のお墓
の跡が多数見つかっています。そして
時代が下るにつれ、古墳のような大き
なお墓が作られるようになり、先祖供
養もより丁寧に行われるようになって
いきます。すなわち我々人間は、仏教
伝来よりはるか以前より死者に対する
特別な感情を抱き、文化を有して以来
ずっと葬送儀礼とご先祖さまの供養を
続けてきたのです。これは、他の生物
と人間との一番大きな差異の一つとも
いえるでしょう。

その人間の持つ最も古い伝統が、い
ま危機を迎えています。特に都心にお
いて、ただ面倒だから、お金がかかる
からという理由で葬儀を行わない家が
増え、お墓にも入れずに散骨というこ
とも少なくありません。それは見送る
側だけの都合ではないようです。体が
思うように動かなくなり、介護を受け
ながら過ごすお年寄りの口について出
てくる言葉は、「子どもたちに迷惑を
かけたくない」。歳を取れば誰しも体

が不自由になりますし、人間はどんな
立派な方でもたった一人で生きてゆく
ことはできません。お互いに支えあい
ながら精一杯生きていくのです。自分
ひとりで問題を抱え込み、死後のこと
までも人目を気にして自分で決め込も
うとする。それが本当の優しさ、本当
の思いやりなのでしょうか。顔もわか
らないご先祖様ならいざ知らず、親子
の間ですら腹を割った親密な関係を築
くことができず、自分勝手に生きる私
たちのことを今一度考えてみる必要が
あると思います。

作家の藤本義一さんが少年院を回っ
て講演会をしていた頃、聴講していた
子どもたちに、「君たちの家に仏壇は
ありますか」と尋ねると、手を挙げる
子は誰もいなかったという話がありま
す。お仏壇は優しさを育みます。仏壇
の前で手を合わせ、ご先祖さまに日々
の報告をし、今日の無事を祈る。ご先
祖さまから脈々と受け継がれた命が、
いま私としてここに存在していること
の不思議。そんなことを思いながら仏
壇の前で静かに手を合わせていると、
普段の喧騒の中では気づかないさまざ
まなことが見えてきます。そのとき、
私たちは自然と優しい顔をしているの
ではないでしょうか。

盂蘭盆会に当たり、普段見守ってく
れてありがたうという感謝の気持ち
を込めて仏壇をお飾りし、どうぞ優し
いお気持ちでご先祖さまをお迎えくだ
さい。

瀧興寺総代就任の挨拶

檀信徒総代 蕪木 久雄



梅雨も上がり、真夏を迎える季節に成りました。

どの時期も平穩無事であつてほしいと祈りを唱える様な年齢になりました。

此の四月から、前任者から依頼を受けて、大役を背負いました蕪木です。

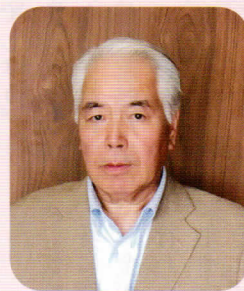
未熟な私には、役が重たく責任が果たせるかどうか分かりませんが、幸い到大勢の役員さんとベテランの方経験豊富の方々が決まり大変頼りにさせてもらつています。寺の住職がいなくなり不安と心のよりどころがなくなり大変困つた中で、金剛寺住職に代務者として瀧興寺に手を差し伸べてい

ただきご指導いただいてますことに、心から厚くお礼申し上げ、今後とも末永くご指導とお務めをお願い致します。現在は、寺の掃除と昭和初期の建物を少しずつ修繕してお寺で法事ができるようにしたいと思つてます。檀信徒の皆さんに報告をさせてもらいご協力と助言をいただきたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。力不足ですが、総代としての挨拶と代えさせて頂きます。



「新たな門出」 相應寺

檀信徒総代 萩原 博明



私は、桐生市新里町山上天竺にある相應寺の責任役員をしております萩原です。相應寺と申しましても地元の人か檀家の人以外は、ほとんどご存知ないかと思ひます、私も相應寺の事は何も知らず三年前に軽い気持ちで役員を引き受けた次第であります。今の相應寺の現状は、本堂がいまにも崩れそうな状態で、檀家数も五十にも満たない、吹けば飛ぶような小さな寺でございます。昨年より縁あつて金剛寺住職志田洋遠様に相應寺を代務して頂くことになりました。突然の事で、志田様には大変ご迷惑をおかけしましたが、何度かお会いし、お話を伺つていろいろな事を教えてい

ただきました。まず最初に責任役員は、一度引き受けたらそう簡単に辞めることのできない重い責任のある役だと言う事を教えていただきました。何も知らずに気軽に引き受けた無知な自分を恥じるばかりです。次に驚いたのは、我が相應寺には、真言宗豊山派有数の学僧で、日本密門三僧の一人と称された法印快道の五輪塔の墓碑がある事を教えていただいた事です。最初は快道と言われてもあまりピンと来なかつたのですが、いろいろな書物を読んでみると、現在の粕川町膳に生まれ、幼少より相應寺十一世快音和尚について学び、八歳で得度したそうです。沢山の著書を出し、江戸時代中期に当寺の仏教界を指導していた偉い学僧だったそうです。そんな立派なお坊さんの墓碑がこのお寺にあるとは、夢にも思ひませんでした。これを機に相應寺の歴史も少し調べてみたら、いろいろな事も



法印快道五輪塔

わかつてまいりました。ただ今の相應寺の現状はその歴史にふさわしい状態とは程遠い姿になっております。幸い役員はみな前向きで、この寺を少しでも良い状態にしようと考えております。本堂の改築、快道上人の墓碑の整備、その他にもやらなくてはならない事は山積しております。

これからが新たなスタートととらえ、志田住職様にもご指導をいただき、檀家の方々にもご協力をお願いし、役員一同頑張つて少しでも前に進んでいきたいと思っております。皆様にも温かい心で見守っていただければ幸いです。どうぞこれからも、ご支援よろしく願ひいたします。

奉仕の心

山田 佳介



私が金剛寺ご住職志田洋遠先生と初めてお会いしたのは今から十五年前の中学三年生の時でした。父の勧めと提案でお寺の本堂と境内の大掃除をさせていただきました。父の声に賛同した私の剣道仲間の家族約十数名で始めたのが最初です。その頃は思春期の真っ只中。心の未熟な十四歳にとって、十二月二十九日の朝から行うお寺の掃除に正直乗り気ではなかったのを今でも覚えています。その

後、高校受験、部活動等もあり行えずにいましたが、二〇〇四年から二〇一五年まで毎年十二月二十九日は金剛寺の大掃除が恒例となっています。

当寺未熟だった私にとって、この大掃除は「お寺を綺麗に掃除すること」でした。しかし、年を重ねるごとにその「掃除」の中に隠されている、父が勧めてくれた本当の意味を理解できてきたような気がします。自分の部屋を「掃除」する意味との違いが「奉仕」をすることの意味として自分の心の中に刻まれていきました。大掃除の日は毎年天気が良いとは限りません。雨の日もあれば大雪の日もありました。大雪の時には、皆手を真っ赤に染め裸子ながら雑巾がけをしました。自宅の大掃除であれば絶対しないような天気の中で、一心に掃除していました。そこにも「奉仕の心」を皆で共有していました。お寺を掃除しな

がら、自分の心を磨く。寒い中、水を触り、手の感覚が無くなっても弱音を吐かない強い心を持つ。自分を犠牲にしても人の為に行動する奉仕の心を持つ。父からのそんなメッセージが伝わっていた気がします。

私は小学二年生より二十三年間剣道をしています。剣道の理念は「剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である」としています。剣道を通して、心身を錬磨し、礼節を尊び相手を思いやる気持ちを養います。稽古を重ね、自分の痛みを知り、相手の痛みを知ることに関心を思いやる気持ちを培います。真夏の暑い中、そして真冬の凍てつく寒さの中行う稽古の意味と、毎年恒例の金剛寺の大掃除の意味の本質に、似たようなものを感じます。

父と始めたこの奉仕活動を通じて培われた精神を自分の子供へ受け継ぎたいと思います。そして、自分の子供にこの精神を受け継いでもらえるようにこれからも金剛寺の大掃除を継続していきたいと思っています。



守り人

青 木 博

日が暮れて、月が出る
星が消えて、日が出る

阿々、何て義父は語ったのか
娘の前で、何て語ったのか

何が用で、何がいらぬか
分らぬが、知らぬ力に守られ暮らす。

商家の盛衰は、風が吹けばと云う程のこと
風景を見つめ、我が道を行くよりなし

この無言の焼饅に、篤き思いを聴きながら
どこへ行くかも分らぬが

片隅の糸をたよりに、今日も努力

今年も、また苗の時期がきた

緑の風の中、あの笑顔が通り過ぎる

志田先生との継りは、
実は遠く育成会の時に生
まれたモノであります。
時を経て五十七歳の時に
保護司になり、再度この
門を往来する事になりま
した。単なる仕事人間で
あった私は、大きな曲が
り角に入ったと感じたも
のでした。ここで教わっ
た事は、生きる事を、見
つめると云う事であり、
私が詩作に興味を持った
のも、こんな別の世界を
少しでも見た事によるも
のであります。

この度は、私の駄作で
はありますが一作、献
上、致します。

口ごろより、心からの
お付き合ひ、大変うれし
く思っております。

夏を感じるきれいな色

小学 5 年生

私は、小さい頃から花火が好きでした。家族と湖や川などに行く
と、夜は花火をすることがありました。お父さんの仕事仲間とする
こともありました。

私が花火を好きになった理由は、色にはくりよくがあり、カラフ
ルな色のほか、花火の音などが良いからです。花火を見てみると、
「夏が来た」と感じられます。

四年くらい前におじいちゃんたちと、花火を見に行きました。打
ち上げられると、色あざやかで、とてもきれいな花火でした。
今年も花火を見たいです。



みちのく山形の霊場

『最上三十三観音』巡礼の旅

山形県東部の三十三箇所を観音菩薩を巡拝する霊場です。

本山で修行した仲間と先生達で『長谷会』なるものをつくり、年一回程旧交を暖めています。

それぞれの『求道の道』を歩み続ける中で、僧侶として住職としての生き方を探る為に、五月十日陸奥の山々に囲まれた、細い参道の奥にひっそり立つ萱葺きの小さなお堂（観音堂）に素直に合掌し頭を垂れ読経姿に、四十年前に本山長谷寺に登った初心に戻れた気持ちになりました。

巡拝した寺院は、山寺立石寺を含め九霊場。

熊本地震の被災者に対する
義援金ご協力ありがとうございました。

今年の四月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けた熊本、大分両県の被災地の復興を支援するため義援金をお願いいたしました。

皆様からご理解並びにご協力いただき救援基金を送金することができました。ありがとうございました。今後とも温かいご支援のほど、何卒宜しくお願いいたします。

金剛寺檀信徒各位

平成 28 年 6 月 1 日

金剛寺檀信徒代表
櫻井 敬雄
金剛寺住職
志田 洋造

熊本地震の被災者に対する義援金について
(お願い)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
常日頃、寺の事業に對しまして格別のご支援ご協力をいただき心から厚くお礼申し上げます。

さて、4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けた熊本、大分両県の被災地は、すでに2か月も経とうとしている今も、復旧が遅々として進んでいない状況です。

そこで、金剛寺檀信徒として被災された方々の一刻も早い復興を支援するため義援金を送付することいたしました。

つきましては是非ともご理解ご配慮のうえ下記によりご負担下さいますようお願い申し上げます。

記

1 檀家当り 500 円以上

領 収 証

No. 291
平成28年7月7日

(住所・所部)
前橋市市ヶ島町1147

(氏名)

金 剛 寺 檀 信 徒 一 同 様

¥222,500 -

※ただし、本法人の公益目的事業を行うための寄付金として
(本会救援基金)

公益財団法人 全日本仏教会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 本会本部
理事長 石上 龍三郎

※ 本法人は、案件を備えた公益財団法人です。本寄付は所得税法第96条第2項第3号の寄付金控除及び法人税法第31条第1項、法人税法第37条第1項第2号の法人税減額の特典を受けることができます。当領収証はその証明資料となりますので大切にしてください。

※ 本法人に対する寄付金は、東京都の条例指定寄付金です。したがって、本法人に寄付を行った翌年の1月1日現在で都内に在住の法人は、確定申告書を用いた所得調整・本領収証を添付し申告することにより、所得調整の寄付金控除及び法人税控除の寄付金控除の恩恵を受けることができます。

※ 東京都以外にお住まいの方は、住所地（都道府県及び市町村）の住民税調整に際して条例指定寄付金控除金に該当するかどうかについては、住所地の市町村税に照会ください。

金剛寺檀信徒一同 様

全日本仏教会救援基金

ご協力の御礼ならびに領収証の送付について

謹啓

慈光照護のもと、ますますご清祥のことと慶賀に存じ上げます。平素より本会の活動に、ご理解並びにご協力をいただいておりますこと、衷心より御礼申し上げます。

この度は、本会の救援基金にご送金頂き、誠に有難うございます。ここに領収証を同封させて頂きましてご査収下さいます。

本会では、仏教精神を基調に、仏教文化宣揚と世界平和の進展に寄与することを目的に、仏法興隆に努めて参りますので、今後とも温かいご支援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

合 掌

公益財団法人 全日本仏教会

行政相談委員としての活動が

紹介されました。

群馬行政相談委員協議会会長

志田 洋遠さん (72)

前橋市苗ヶ島町



「行政相談委員の存在を知ってほしい」と話す志田さん

「現場」見に行き確認

5月に群馬行政相談委員協議会会長に就任した。「地域の相談相手として気軽に声を掛けてほしい。広く知ってもらうことが一番の課題」と、行政相談委員制度の認知度向上こそ責務と語る。

行政相談委員は総務大臣から委嘱を受け、国が行う行政サービスへの苦情や相談の窓口を無償で行っている。

全国に約5千人、本県は89人が在籍している。1991年から委員を続けている。金剛寺住職としての務めのほか、翌92年から保護司の肩書も増え、忙しい日々を送る。

会長になり、県外への出張などで寺を空けることも増えてしまいが、支えてくれるのは妻の房恵さん。24年

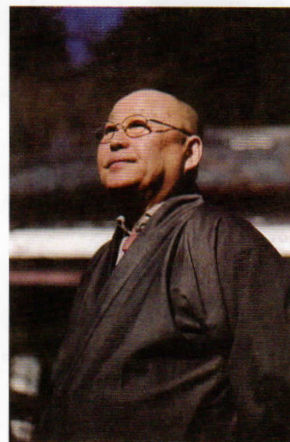
間の中で3回、辞めたくなったことがあったが、房恵さんの「何を言ってるの」の一言が背中を押してくれた。

お金で買えない信頼に応えるために、大切に行っているのが「現場」。相談をよく聞いた後、問題となっている場所を見に行き、自身の目で確かめる。「問題に対して公平に判断

することが正しく聞くことだと思っている」と信条を語る。

「行政相談委員のことを誰もが知っている社会にして、全ての国民の声を拾いたい」。これからの耳を傾ける。

Ikiki
Maebashi
Jin



行政相談委員を長らく務める

志田 洋遠さん・73歳
苗ヶ島町

共に考え解決への手助けに

国などの行う行政サービスに対する苦情や相談を受け付け、改善につなげる役目を担う行政相談委員。志田さんはこの相談委員を務めて24年。現在は市の支部長と県の協議会会長を兼任している。

「行政相談は国などへの苦情相談が本業ですが、実際の相談はさまざま。じっくり話を聞いて内容を整理し、解決の糸口を見つけていきます。納得のいく結果のため、できる限り相談者に向き合います」

普段は金剛寺の住職として寺務に当たる。行政相談委員に加え、保護司としての活動も23年目を迎えた。心掛けているのは傾聴の姿勢と現場主義。相談者の話を元に現地に

赴き、事実関係を確認し、国などへ報告、改善を促す。

「多岐にわたる相談に対応するには保護司や民生委員・児童委員、人権擁護委員などの連携も大切です。すぐには解決しない問題でも、話を聞くだけで気持ちがあすきりしたと感謝されることもあるんです」

課題は知名度。イベントなどでの啓発に加え、学校への出前教室も計画中大という。行政相談委員は国などに直接意見することのできる素晴らしい制度。多くの人に制度を利用してもらい、暮らしやすいまちを実現するための手助けをしたい。そう語る目は優しさと意志にあふれていた。

法話

叱られた 恩を忘れず 墓参り

これは古い川柳です。

人間関係が希薄になり、世知辛い世の中になって久しいと言われる昨今ですが、この川柳は私は生きていると確信しております。

この川柳を読んだ時に、愚僧もこの年になるまで多くの人達（先生・師僧・先輩・父母・檀信徒）に何度となく叱られたか。そして悔しい思いや腹がたった経験が脳裏（のうり）に浮かんできました。・・・子供でした。

これらの経験が人生にとって、どれ程大切なものか、叱ってくれた人達に感謝する日々です。

利益^{りやく}は 銭金^{ぜにかね}積めど 得^えられぬぞ
無^む心^{しん}に合^あわす 手^ての中^{なか}にあり

平成二十八年
回忌一覧

一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十五回忌	平成四年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正六年

追善供養は毎年ご命日に行うのが本義です。

この一覧表は、一般的に行われている年回表を表したものです。

庫裏便り

今後発刊の折に「庫裏便り」を出させていただき、少しでもお寺の生活が見えるようにしたいと思っております。

母 (宣子)
行年九十六歳にて、今年一月二十七日永眠致しました。
六十三年間檀信徒の皆様、地域の皆様にお世話になりました事心より感謝申し上げます。

住職 (洋遠)

新里町 長岡様からの年賀はがき



「保護司」を今年三月に退任致しました。平成三年より、二十五年間、御指導、御協力をいただき無事退任出来ました事は、偏へに地域の皆様のおかげと深謝致しております。
昨年四月より新里町関「瀧興寺」及び山上「相應寺」の代務住職になりました。御協力を切にお願いいたします。

住職からのおすすめ本

題名 住宅顕信読本
著者 小林恭二ほか
発行所 中央公論新社
定価 千八百円＋税

題名 満豪開拓
著者 夢はるかなり上・下
発行所 株式会社ウエッジ
定価 千六百円＋税

題名 晴れてよし、降ってよし、いまを生きる
著者 佛光時
発行所 学研パブリッシング
定価 千四百円＋税

題名 教誨師 (きょうかいし)
著者 堀川恵子
発行所 講談社
定価 千七百円＋税



編集後記

平成十六年に創刊号を出させていたでいて、早いもので今回第十一号を発刊させて頂きます。皆様のご理解、ご協力に唯々感謝申し上げます。

「金剛寺ホームページ」も四万七千七百名以上のアクセスがあり、九月頃更新すべく準備を進めております。今少しの時間をいただきたくお願い致します。

今号の表紙は、学友として一目おく安孫子虔悦師 (東京都江東区正覚院住職) に御執筆をお願い致しました。又、代務住職となりました「龍興寺」「相應寺」総代に就任いただきました蕪木久雄氏・萩原博明氏に投稿いただきました。心より感謝申し上げます。長年当寺の本堂清掃活動にいられておられる方々を代表し、山田佳介様に「奉仕の心」と題し、青木博様には、ご多忙中の「守り人」、黒岩飛翔さんの新聞に載りました「夏を感じるきれいな色」を投稿して頂き心よりお礼申し上げます。

皆様の御縁をいただきながら、寺報「道」をお届け出来る喜びで一杯です。
末筆になりますが、先の九州熊本地震で亡くなられた方々に、つつしんで哀悼の意を表します。

合 掌